

静岡新聞 2024年5月8日付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

読み書き算盤^{そろばん}。昔からこれが教育の基本であった。この三つの能力を持つことが、社会生活を送る上で必要であるからだ。これは今でも変わらない。文章の読み書きができることは全ての基本であるし、数学(算数)の基本をマスターすることでより抽象的な思考を行うことができる。ただ、現代の社会は読み書き算盤だけで何とかなるわけではない。世の中はもつとずつと複雑になっている。だから、大人にとつてはそれ以上の知識と能力が求められる。それらの知識をリテラシーと呼ぶのが適当である。自分や家族の健康を管理するために必要な健康リテラシー、経済や金融などでのやり取りで失敗しないための経済(金融)リテラシー、ITを使いこなすITリテラシーなどがリテ

リテラシー教育の必要性

ラシーの代表であろう。こうした知識(リテラシー)が大人にとつて必要なことはもちろんだが、子供にこれらのリテラシーを高めるような教育は必要なのだろうか。

分野によって違いはあるだろうが、一般的に言つて、これらのリテラシーの多くは大人になってから学ぶのでは遅すぎるようだ。ITリテラシーのケースが分かりやすい。子供の頃からプログラミングやIT機器の利用を学ぶ機会を持つ必要があるという認識は広がっている。ITに頼りすぎることで他の能力が削がれることがあつてはいけないが、ITリテラシーを確保するためには子供の頃からの取り組みが有効だ。

健康リテラシーでも、早期の取り組みが必要だ。例えば歯磨きなどで歯の健康を維持することは健康リテラシーの基本だが、それは自分の歯を磨くことで健康を守ることが、習慣を身につけることが必要となる。三つ子の魂百までと言われるが、子供の時の習慣付けが有効である。

では、経済リテラシーや金融リテラシーはどうだろうか。私たちの世代は、高校を卒業するまでに、経済や金融のリテラシーを学ぶ機会是非

常に少なかった。確かに社会や政治経済などの授業はあつたが、それによつて経済(金融)リテラシーが身につくというものではなかった。実際に社会に出て経済活動を営み金融取引をする際に必要な知識は学校では教えなかった。

ただ、最近になつてこうした流れに修正がなされようとしていく。実際の社会の動きを学ぶことで経済(金融)リテラシーを学んでもらおうということがカリキュラムに加えられるようになっているのだ。経済や金融の仕組みについて自分の身の回りで起きていることを学ぶことで、社会の姿についてより深く理解できるはずだ。経済や金融のメカニズムがより深く理解できれば、将来の自分が進みたい方向について考える機会ともなるだろう。

経済や金融のリテラシーというところ、お金の知識を学ぶことだと狭く考えられがちだ。もちろんそれも大事だが、経済や金融を学ぶことは、より広く社会のあり方を学ぶことでもあり、その中で自分の進む道を考えることである。経済(金融)リテラシーについて学ぶ機会を子供の頃から持つことの意義は大きいはずだ。